



◆生育状況について

発芽期は、昨年に比べ5日早い状況。展葉などは7日以上早い生育状況となっている。園地や樹勢によってはシャインマスカットの生育の方が進んでいる所が見受けられる。本年も昨年同様に開花時期に差がなく作業が揃うことが心配されるため管理作業が遅れないように注意する。

JA管内	ナガノパープル			シャインマスカット		
	発芽	開花	満開	発芽	開花	満開
平年	4/24	6/1	6/8	4/26	6/7	6/11
令和8年	4/15			4/17		
令和7年	4/20	6/4	6/8	4/22	6/6	6/11
令和6年	4/17	5/25	6/2	4/20	6/1	6/5

◆当面する重点作業について

1. 品種間の生育差が少ない為今後の管理作業（特に開花）の間隔が狭くなることが予想される。各種作業が遅れないよう適期に行う。
2. 積極的にかん水を実施する。
3. 薬剤散布を適期に実施する。
4. カスマカメムシの発生が散見される時期となる。ヨモギや近隣の耕作放棄地でも発生するため、地域ぐるみで対策を行う。

◆第4回薬剤散布について

1. 散布時期：展葉5枚期

--	--	--

 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000当り・10a当り散布量：2500以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病虫害
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
トレノックスフロアブル	1,000倍	100ml	60日	黒とう病
（トクチオン水和剤）	800倍	125g	45日	クワコナカイガラムシ

3. 散布上の留意事項
 - 1) トレノックスフロアブルに代えてICボルドー66Dの50倍（水1000当り2kg）又はキノンドー顆粒水和剤1,000倍（水1000当り100g）を使用してもよい。
 - 2) クワコナカイガラムシ発生園は、トクチオン水和剤を加用散布する。散布の際は、主幹・主枝・芽座にしっかりかける。
 - 3) トクチオン水和剤に代えて、Ⓜダイアジノン水和剤34の1,000倍（水1000当り100g）を使用してもよい。

◆種なしぶどう「無種子化」薬剤散布について

完全に種を抜くため、自園の生育に合わせて、品種毎に適期に必ず散布する。

1. 対象品種：「種なし」で出荷するすべての品種。

2. 散布時期：満開予定日の14日前～開花7日前まで

実際散布月日 月 日

各品種の散布目安：展葉8～9枚目

開花初期に近づくにつれ、種混入の可能性が高まるので早めの散布をする。

3. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000l当り・10a当り散布量：2000l

農薬名	使用倍率	調合量
アグレプト液剤	1,000倍	1000ml

4. 散布方法

- 1) 薬液が掛からない部分は種が抜けない。園地全部が「種なし」ぶどうの近接に「種あり巨峰」が無い場合は、動力噴霧器を使用して花房全体に掛かるようたっぷり散布する。
- 2) 近接に「種あり巨峰」がある場合は、らくらくカップ使用による花房浸漬で、飛散させない。

5. 散布上の留意事項

- 1) 風の無い日を選んで散布する。
- 2) 当日使用分のみとし作り置きせず、日陰で保管する。
- 3) 高温時使用は、避ける。

◆種なしぶどう「新梢伸長抑制」液剤散布について

種なしぶどうの房型向上（着粒安定）対策技術として実施してもよい。使用回数は年2回できるが、開花前と満開後の併用（2回）使用した試験事例は少ないので、どちらか1回使用を推奨する。

1. 散布時期：新梢展開葉7～11枚時（開花始期まで）

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000l当り

農薬名	対象品種	使用倍率	調合量	10a当り散布量
フラスター液剤	シャインマスカット	1,000～1,200倍	100～83ml	100～1500
	ナガノパープル	500～800倍	200～125ml	1500
	以外の品種	500～800倍	200～125ml	100～1500

3. 使用上の留意事項

- 1) 着粒が良すぎて摘粒作業が増加する場合がある。特にナガノパープルは、着粒が多くなりやすいので遅らせて散布する。また、赤系品種は着色不良となる場合（着果過多）があるため使用しない。
- 2) 散布すると軸の伸長を抑えるので、房こき時の軸長を通常より0.5cm～1cm長く残す。長くても5cm以内にする。
- 3) 樹勢が弱い場合は散布をしない。強樹勢では濃度を薄く使用すると効果が出ない場合がある。

◆種あり巨峰について

1. 芽かき作業 《発芽や樹勢に応じて行い、新梢の勢力伸長を揃える》

5月はまだ晩霜の危険な期間である。凍霜害対策は引き続き行い万全を期す。

 - 1) 発芽が悪い園
 - ①かん水：定期的にかん水を行い、新梢の発芽・伸長を促す。
 - ②芽かき：できるだけ多くの新梢を確保する。葉枚数確保ができれば新梢管理を行う。
 - 2) 第1回目
 - ①展葉初期に不定芽と種枝基部の2芽をかき取る。
 - ②樹勢の弱い樹は早目から行う。
 - 3) 第2回目
 - ①副芽や極端に強い新梢をかき取り、棚の明るさとバランスを保持する。
 - ②負け枝を作りやすい部位（主枝分岐部・側枝種枝の基部）は早めに処理する。
 - ③5～6枚期以前に強い新梢を除去することにより、基部に近いところまで新梢を揃えることができる。
 - ④新梢の重なりを防ぎ、開花時に花房へ日照を当てる事が重要である。
ただし花振り回避のため、開花前の芽かきは極力弱めとする。（強樹勢）
 - ⑤開花中に棚が暗くなっても困るので、樹勢が強く芽数が多く残っている場合は、不要な結果母枝を棚下へ下げて棚の明るさを確保し、実止まり確認後に切除する。
2. 新梢の誘引作業 《新梢勢力の平均化と樹形を整える》
 - 1) 新梢長が30cm～40cm程度に伸びた頃から実施する。
 - 2) 弱い新梢は誘引せず立たせておいて棚面を立体的に活用し、葉面積を確保する。
 - 3) 欠けにくい日中に行い、ねじれぬよう水平に誘引する。
3. フラスター液剤散布時期及び方法について
 - 1) 散布時期：平均的新梢の展葉数で8～9枚目が10円玉位の大きさになった頃
実際散布月日 月 日
 - 2) 使用薬剤（混用順記載）※調合量1500l当り・10a当り散布量：1500

農薬名	使用倍率	調合量
アプリーチBI	750倍	200ml
フラスター液剤	750倍	200ml
3. 散布上の留意事項
 - 1) 生育の状況を観察し適期に散布する。（自根樹は生育が早い、散布時期に注意する。）
 - 2) ウイルスフリー樹等、樹勢の強い園はフラスター液剤を500倍（水1500l当り300ml）で使用する。
 - 3) 新梢全体（花穂も）に丁寧に散布する。（ツユのある早朝、日中高温時は避ける。）
 - 4) フラスター液剤の効果を高めるため、花穂によく日光が当たるよう新梢管理を行う。
 - 5) 欧州系等は薬害を生じる恐れがある。他作物も含めかからないように散布する。
4. かん水
 - 1) かん水は発芽を揃えるため、晴天が5～6日続いたら20～30mm程度実施する。
ただし、開花7～8日前までに切り上げる。